

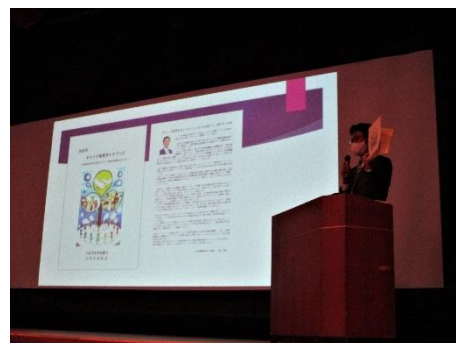
第一回キャリア教育研究部研修会 報告書

1 講話「キャリア教育の必要性」

浜松市立豊岡幼稚園（前天竜中学校校長） 鈴木康一 園長

【はじめに】

『浜松市キャリア教育ガイドブック』の花井教育長の言葉より
「ガイドブックが完成した今、登山口に立ったところだ。登山口は決して一つではない。最適な登山口を探してほしい」。各学校において最適な登山口を探ることが大切である。また、キャリア教育ガイドブックは、キャリア教育初心者でも「挑戦したくなるように」作成されているため、ぜひ有効に活用してほしい。



<鈴木先生の講話>

【なぜ今キャリア教育が必要なのか】

新学習指導要領総則では、「学ぶことと将来をつなぐ」ことの重要性を掲げている。OECDの学力到達度調査を見ると、日本の学力は高いが、教科に関する有用感（「理科を学習すると日常生活に役立つ」等）が低い。今の学びが将来とつながっているという意識が低いということが分かる。OECDは「学校から仕事へ円滑につなげる仕組みが必要」と指摘している。各教科等での学びを通してどういった力が身に付くのかという、教科等を学ぶ本質的な意義を明確にする必要がある。

子供たちの未来を考えると、現在の職業の多くは今後なくなっていく見通しである。新学習指導要領のキーワードとして「カリキュラムマネジメント」「開かれた教育課程」「資質・能力の3つの柱」が挙げられる。これらに共通する視点として「キャリア教育」が挙げられる。新しいことをするのではなく、「キャリア教育」の視点をもって指導計画の作成や研修にあたっていく必要がある。

【教科指導では、どのようにキャリア教育を進めるのか】

新学習指導要領では、「特別活動を要としつつ、各教科等の特質に応じて、キャリア教育の充実を図る」と規定されている。まずは、キャリア教育で育てる力をしっかりと理解すること、そして、「学び方」を変えていく必要がある。「既成の授業からの脱却」である。学ぶ側に必要なのは「予習」「主体的に学ぶ」「考えの異なる人と議論すること」の3つである。授業改善では「情報の伝達より学生のスキル育成に重きをおく」「学生は高次の思考に関わっている」「問題解決のために知識を使う」等が挙げられる。

【キャリア教育における授業改革のアイデア】

全員が主人公になり、「なぜ」を重視する授業方式（「ゼミ方式」）に変換することで確実に力を付けることができる。ほかにも、ディベート甲子園、レポート提出、地域人材の活用、1年生から始める進路学習、生徒が地域と語る会、起業家によるハローワークなど。先生方のアイデアが必要となる。

【お願い】

学校の今の子供たちの姿、課題を見据えて、「身に付けさせたい力の具体」を先生方みんなで共有し、全体計画と年間計画を見直すこと。ここからスタートしてほしい。

【最後に】

「レンガ職人」（イソップ童話）より、「同じ仕事をしていても、目的を持っているかどうか」で仕事が変わる。「何のために勉強をしているの」と聞かれたらどう答えるか。鈴木先生は「大きくなるまでは多くの人に迷惑をかけ、お世話になって育ちました、社会に出るといことは、今度は手助けが必要な人のために、自分の良さを発揮して何か自分ができることをするために、必要な勉強をしているのだと思います」と答えるとのことであった。

2 グループワーク

「各学校のキャリア教育の取組状況と課題及び課題を解決するための取組」について、小中分かれて、小グループで話し合いを行った。各グループで話題となったことは以下の通りである。

【課題】

- ・教科指導とキャリア教育の視点のつなげ方
- ・各学校の実態に合わせて4つの育てたい力を子供たちに分かりやすい言葉にどう変えていくか
- ・子供に浸透させていくにはどうしたらよいか
- ・職員間の研修の在り方
- ・キャリアA、キャリアBの授業づくり
- ・キャリア教育推進教師としての研修の持ち方
- ・キャリア・パスポートの生かし方
- ・教科のめあてがキャリア教育に寄ってしまう（教科指導とのバランスが難しい）
- ・家庭に浸透しない
- ・目標が乱立している
- ・キャリア教育のとらえ方が限定的（職場体験など）
- ・「キャリアプレート」の効果的な活用方法
- ・職員間の意識の差



<グループワーク（小学校）>

【課題を解決するための取組】

- ・具体的な子供の実態調査から始める
- ・まずは『浜松市キャリア教育ガイドブック』を読み込む
- ・先進校の取組を真似していく
- ・計画をしっかりと立てて、どこにキャリアAやBを位置づけていくのか考える
- ・学年便りで紹介する

- ・中学校区で研修をすすめる（合言葉をそろえるのも一つ的手段）
- ・キャリア便りで職員に啓発していく
- ・キャリアありきにならないよう、まずは教科の学習をしっかりと行う、この積み重ねがキャリア教育にもつながる
- ・キャリア教育が「プラス α 」の負担にならないようにポイントを絞る
- ・キャリアプレートありきではなく、教科のめあてとキャリア教育のめあてがしっかり合致した単元で活用する



<グループワーク（中学校）>

- ・まずは、職員間の共通理解が必要であり、教職員全員が同一步調で推進していくことができるような校内での研修が不可欠
- ・キャリア・パスポートの有効活用
- ・キャリア・オリエンテーションの確実な取組
- ・可視化する、掲示物をつくる

各グループで熱心な協議が行われた。また各校の現在の取組状況について情報交換を行う貴重な場となった。